

2012年9月14日

東急建設株式会社

## 植物工場ビジネスへの参入および 株式会社リッチフィールド美浦への参画について

東急建設（株）（本社：東京都渋谷区、社長：飯塚 恒生）は、国内建設市場の縮小を背景に、新たな収益基盤の開拓のため、予てより新規事業への参入を検討してまいりましたが、この度、茨城県稲敷郡美浦村において、パプリカの周年栽培を行うプロジェクトに事業主体者として参画することを皮切りに、植物工場ビジネスへ参入することとしました。

近年、増加が顕著となっている耕作放棄地等の未利用地を有効活用するソリューションの一つとして、植物工場ビジネスの可能性について検証した結果、国内農業の産業化への期待感から市場性・収益性の拡大が見込まれることや、未利用地の有効活用による地域の活性化や雇用創出に、ブランドメッセージ「Town Value-up Management」を掲げ、地域の価値向上に貢献する企業としての社会的意義を見出せることにより、同ビジネスへの参入を決定したものです。

具体的には、茨城県稲敷郡美浦村にパプリカの植物工場施設を設置し、生産・販売を実施いたします。生産施設の運営は、当社が過半を出資する（株）リッチフィールド美浦（本社：茨城県稲敷郡美浦村、社長：吉田 良弘）が、当分野に実績のあるリッチフィールドグループと共同で行ないます。

本プロジェクトでは、パプリカ生産の先進国であるオランダの栽培施設を導入することで、気象状況や病害虫の影響を最小限にとどめ、年間8か月の収穫期間を確保することで安定した生産を可能とし、初年度年間400トンの収穫を予定しております。生産物は、「リッチフィールド」ブランドのパプリカとして、全国に流通させる予定です。

今後は、本プロジェクトへの参画を通じて、植物工場ビジネスのノウハウの取得を推進し、植物工場ビジネスにおけるプレゼンスを高めるとともに、未だに作付されない農地が多数存在する東日本大震災の被災地復興へのソリューションとしても寄与できるものとして捉え、検討を進めてまいります。

当社が提案する植物工場ビジネスは、未利用地に高度な農業技術に基づく野菜等の周年・計画生産が可能な栽培施設を建設し運営するものであり、当社の手掛ける事業範囲は、用地の確保、生産施設の企画・設計・施工・維持保全、農産物の生産・販売等までを含みます。当面、未利用地保有者等へのコンサルティングが中心となる見込みですが、ビジネスノウハウの取得により事業規模を拡大し、今後10年間で売上高80億円の獲得を目指してまいります。

東急建設は、企業ビジョンに掲げる「Shinka（深化×進化＝真価）し続けるゼネコン」として、今後も新たなソリューションの提供に挑戦し、建設業の新たな社会貢献への役割形成に努めてまいります。

### 【株式会社リッチフィールド美浦の事業概要】

農場所在地 茨城県稲敷郡美浦村大字土浦内  
敷地面積 約 26,000 m<sup>2</sup>  
施設面積 20,640 m<sup>2</sup>  
施設構造 園芸用ガラス温室（フェンロー温室）  
栽培品目 パプリカ  
予定収量 初年度年間 400 トン



参考：導入する同等施設（左：外観、右：内観、写真提供：リッチフィールド㈱）

### 【パプリカの特長】

パプリカとは、170g程度の肉厚の甘みがある大型果実で、赤・黄・橙の色彩が好まれ、中食・外食を中心に市場が急成長しています。ビタミンA・C・E・カロチンを多く含み、赤色果実に含まれるカプサンチンは抗菌力が強く、動脈硬化予防に効き、ヨーロッパでは「ビタミンの王様」と呼ばれています。パプリカの国内市場規模は109.4億円（平成22年度実績）ですが、海外からの輸入依存度が高く、90%程度はオランダ・韓国等の外国産が占めており、消費者の国産志向の高まりから、国産品の供給増加が望まれています。

### 【今後のスケジュール】

平成24年	9月	施設整備開始
平成25年	6月	施設整備完了・試運転開始
	7月	生産開始
	11月	収穫開始

### 【本件に関する問合せ先】

東急建設株式会社 管理本部 経営企画部 広報担当 小川  
TEL 03-5466-5016 FAX 03-5466-5069 E-mail:webmaster@tokyu-cnst.co.jp